

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400024
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ三瓶
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立 7 番耕地 8 4 番地1
自己評価作成日	平成22年7月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の関わりの中で入居者の皆さんが作られた雑巾やティッシュケース等の作品を法人のバザーへ出展したり、近隣の中学校へ贈呈し、生かすことが出来ました。 生徒さん達に喜んでもらえた事が嬉しかったようで、その後もホームでは作品を作り続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所でベルマークを集めて小学校に届けたり、利用者が縫った雑巾を中学校に寄付されている。又、法人の「ふれあいバザー」では、ティッシュケースやポーチ等、利用者が作ったものを販売された。ふれあいバザーでの様子は、地元ケーブルテレビで放送されている。10月末には、町内の介護事業所の主催で地域の方に向けて、事業所内容についての説明会を行う予定になっている。 ●献立は、法人内6か所のグループホームで2カ月分ずつ手分けして、1年間の献立が作成されており、活用しながら食事作りをされている。事業所の畑で育てた野菜を利用者と収穫して調理されたり、季節のものを採り入れて食事を楽しまれていたり、調査訪問時は、竹を使って、事業所内でそうめん流しを楽しまれていた。今年初めて育てたスイカが実り、男性利用者と職員が協力し合って切り分けている様子うかがえた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ三瓶

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 林 香代

評価完了日 22 年 7 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設時に職員全員に実施したアンケートを基に理念を作成し見やすい場所に掲示している。日々の業務では理念に沿った支援が出来るよう職員間で情報を共有し入居者個々の状態に合わせたケアを心がけている。	
			(外部評価) 事業所では、理念の一つに「外出の機会を作り、地域との関わりを大切にしていきます」と掲げて、「地域行事に積極的に参加し、交流をしていきたい」と考えておられた。管理者は職員に、理念に沿って「自分だったら」と立場を置き替えて考えてみるよう、話しておられる。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 食材の買い物は地元の店を利用し、入居者の方と出かける機会としている。また、回覧板を活用し、地域の行事にも出来る限り参加している。また、近隣の小・中学校との交流や地域のボランティアの方々の受け入れも積極的に行っている。	
			(外部評価) 事業所でベルマークを集めて小学校に届けたり、利用者が縫った雑巾を中学校に寄付されている。又、法人の「ふれあいバザー」では、ティッシュケースやポーチ等、利用者が作ったものを販売された。ふれあいバザーでの様子は、地元ケーブルテレビで放送されている。10月末には、町内の介護事業所の主催で地域の方に向けて、事業所内容についての説明会を行う予定になっている。区長の方から地域行事の情報をいただいたり、参加した際には、利用者の席を準備してくださった。	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) いつでも気軽に見学が出来るよう、職員全員が対応出来るようにしている。また、運営推進会議では認知症に対する理解を深めて頂けるよう議題に取り上げ説明したり、ホームでの活動や生活の様子が分かるよう報告するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2 ヶ月に一度運営推進会議を実施。運営状況や評価等 の取り組みについてもその都度報告を行い意見交換し ている。議事録は玄関先に掲示し、職員にはスタッ フ会等で申し送っている。ホームの様子が少しでも伝 え出来るよう、ホーム内には活動風景の写真も掲示し ている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、写真を見ていただきながら、日々 の利用者の様子や行事の様子を報告されたり、事業所 のヒヤリハット事例について報告して意見をうかがっ ておられる。会議には、ユニット毎に1名のご家族が 1年間続けて参加して下さるようになってきている。今 年度から市内の他グループホームの方達が参加してく ださっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 事故報告や感染症発症時など必要時にはまず電話にて 第一報を入れ、その後の経過についても適宜連絡をと り、報告するようにしている。書類提出時出来る限 り直接持って行くようにし、協力関係が築けるよう心 がけている。	
			(外部評価) 市の担当者や相談しながら取り組みをすすめておられ る。介護相談員を受け入れておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の鍵は夜間以外かけていない。玄関は開くとチャ イムが鳴るように工夫されている。それぞれのユニッ ト間で客観的な視点を持つよう日頃から気をつけ、ど うすれば身体拘束をしないケアが出来るか、必要時に は検討するようにしている。	
			(外部評価) 入院先からミトンを付けて退院された利用者もあつた が、ご家族と拘束について説明したり相談しながら、 ミトンを外して生活できるよう支援された事例があ る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞等で関連記事が掲載されている時には職員間で共有している。入浴時には全身の観察を徹底。付帯施設全体としても2ヶ月に一度勉強会を実施しており、内容については月に一度のスタッフ会で報告するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在ホームで制度を利用している方がいないが、今回制度について全体で勉強会を行った。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはゆっくりと時間をかけて説明するようにしている。また、改定等の際には文書にて説明を行い、理解していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各階の玄関には苦情相談受付のボックスを設置している。また、面会の際には近況報告を兼ねて様子をお伝えするよにしており、その際に御家族の思いやご意見も伺うようにしている。 (外部評価) 毎月、利用者個々に日頃の写真とコメントを付けてご家族に送付されている。又、事業所たより「まんぼう」は2カ月に1度発行している。年1回の家族会では、職員とご家族の信頼関係作り等にも取り組まれている。	ご家族との関係を深めていくためにも、事業所の取り組みをさらに知っていただけるよう報告について工夫をされてみてはどうだろうか。例えば、運営推進会議で話し合われたことを報告したり、災害対策の取り組みや事業所が特に力を入れて取り組んでいることを伝え、ご意見をうかがってみてはどうだろうか。又、普段からご家族から気付いたこと等を言ってもらえるよう雰囲気作りにもさらに取り組まれ、ご家族の声を集めて運営に反映していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、各階合同で行っているスタッフ会や日々の申し送り等で意見交換している。結果がどうであれ、さまざまな取り組みをする中で、その方にとってよりよい方法が見つかるよう形にとらわれないようにしている。 (外部評価) 管理者は「わからないことは聞いてください」と職員に声かけされており、職員が不安に思ったことや迷った時には、その都度、管理者に聞きながら、行うようにされている。行事を行う際には、内容について職員でアイデアを出し合い話し合っ決めておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 登用制度があり、各自が向上心を持って働ける環境となっている。資格取得に対しても奨励している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には出来る範囲で参加できている。研修に参加した際にはスタッフ会で報告する機会を作り、他の職員にも研修内容を伝えるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 付帯施設全体で毎月勉強会を実施中。介護知識・介護技術・看護知識・普通救命講習の3つの分野に分け、各部署から参加する為、交流の場にもなっている。法人内で相互研修も実施。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の健康診断には可能な限り立会い、事前に顔合わせを行う事で少しでも入居時の不安が軽減するよう配慮している。ご本人からも今までの生活の様子等お聞きし、要望を受け止めるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族に対しては、見学時や入居前の健康診断の際、契約時に困っている事、不安に思っている事、ご要望等お聞きし、可能な限り対応している。また、面会の際にも声をかけるようにしている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望や困っている事に耳を傾け、本人や御家族、担当の介護支援専門員等でよく相談をし、「その時」に必要な支援を見極めるようにしている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一日の生活を通して、出来る事は一緒にして頂き、職員が奪ってしまわないよう活躍出来る場面作りを心がけている。助けてもらったり教えられる事も多く、その都度感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何か変わった事があれば、適宜連絡をとり、相談をしながら時には協力を得て共に支えていく関係を築いている。御家族にしか出来ない事、御家族だからこそ出来る事がある事を理解してもらい、ご本人との関係を大切にいただいている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会・外出・電話等、それぞれが大切にしてこられた方々との関係が継続出来るよう支援している。散髪や買い物等、可能な限り馴染みの店にも行けるようにしている。また、地域行事にも出来る限り参加するようにしている。 (外部評価) 利用者は、ほとんどの方が町内の方で、買い物に出かけた際等には、知人や近所の方と出会ったり、おしゃべりをされている。又、以前から利用していた散髪屋を続けて利用されている方もある。親族の結婚式に出席予定の利用者もおられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士、仲の良い方とお付き合いが上手く出来ている場合にはそっと見守り、苦手な方の場合には職員が間に入って他者と交流が出来るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されている場合には契約が終了しても、お顔を見に行ったり、必要に応じて連絡を取ったり、相談や支援に努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 今までの生活の様子等、御家族やご本人からお話を聞き、可能な限り希望に添えるよう支援している。 (外部評価) テレビや、新聞の広告を見ながら、職員は利用者に出先の希望や食べたいもの等を聞くようにされている。「帰りたい」と言われたり、行動するような利用者に対して、帰りたい思いが強くなるような時間帯を調べたり、ご家族から以前の暮らし方等もお聞きして、利用者の思いの把握に努めておられる。事業所独自で「関わり一覧表」を作成されており、職員が日々、利用者にかかわる中での「発見したこと」等を随時記入しておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでにサービスを利用した事がある場合には担当の介護支援専門員より情報提供を依頼し、経過等の把握に努めている。ご本人や御家族からもこれまでの暮らし方について伺い把握に努め、馴染みの物(食器・家具等)の持ち込みも自由に行えるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定は毎日実施。日々の状態や様子については主治医にも報告を行い、個人別に介護記録に記入している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、把握に努め、個々の有する力については現在も維持・拡大出来るよう引き続き取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に一度のスタッフ会の際にカンファレンスを実施。入居者の状態に合わせ、情報を共有し、ケア方法を統一出来るように意見交換している。御家族には面会に来られた際に、状態について報告し、ご意見等伺うようにし、ケアプランの説明後に署名か捺印をいただいている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時や電話でご家族にケアや生活について要望を聞き取ったり、介護計画書には「ご家族の気持ち」を記入する欄を新たに設けて、ご家族に書いてもらうようにされた。「本人の出来ることをしてほしい」との家族の気持ちを受けて、「調理を手伝ってもらう」ことを計画に挙げておられ、見直しされた後には「ごぼうのさがきをしてもらう」ことが支援内容に挙げられており、ご本人の「できること」をより具体的に見つけて支援されていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録や日々の申し送りで情報を共有し、日々の変化をケアプランの見直しに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院受診や散髪、買い物や外出等、その時の状況に応じて柔軟に対応している。必要があれば御家族にも出来る範囲で協力をお願いしたり、相談をしながら取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内はボランティアが盛んな為、積極的に受け入れを実施。現在までに演奏会・日本舞踊・大正琴・コーラス・紙芝居・体操・ダンス等受け入れ、前年同様に、定期的に訪問に来ていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や御家族の希望を大切にし、入居前にかかりつけ 医については相談している。その時の状態や状況に応 じて必要な場合には、希望する病院へ受診出来るよう 支援している。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医に続けてかかる方は、ご家族 が受診に付き添われている。又、入居時に協力医に移 行される方もある。協力医の往診時にはご家族も来ら れて、医師に直接、利用者ご本人の病状や薬について 聞かれることもある。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 一週間に一度、医療連携看護師の訪問があり適宜、状 態の報告や相談を行っている。毎日バイタル測定を実 施し、体調の管理と状態の把握に努め、必要な場合 には医療連携看護師に連絡を取り、状態報告している。	
			(外部評価) 入退院時には情報交換を行っている。入院先の病院に は定期的に顔を出し、入居者が少しでも安心出来るよ う配慮している。病院関係者とも定期的に連絡を取り 合い、早期退院に向けて相談するようにしている。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には情報交換を行っている。入院先の病院に は定期的に顔を出し、入居者が少しでも安心出来るよ う配慮している。病院関係者とも定期的に連絡を取り 合い、早期退院に向けて相談するようにしている。	
			(外部評価) ご家族には、入居時に、看取りについて事業所の方針 を説明をされている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明している。また、入居者の状態につい ては、御家族や主治医、医療連携看護師に報告・相談を 行い、必要な場合には主治医から御家族に説明をして 頂いている。方針については共有し、ホームで出来る 事を理解して頂けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) ご家族には、入居時に、看取りについて事業所の方針 を説明をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の連絡先やマニュアルを作成している。普通救命講習も10名の職員が受講済み。2ヶ月に一度の付帯施設の勉強会では看護師による応急手当や初期対応についての勉強会があり参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に一度、防火訓練を実施出来るよう計画している。訓練の際には消防署職員に立会って頂き、指導を受けている。スプリンクラーの設置も完了。今後は地域の消防団の方にも来所していただき、協力体制が築けるよう働きかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を行っておられ、職員が利用者の避難誘導をされ、消防署の方にアドバイスをいただいた。職員は町内の方が多く、火災時には、職員の連絡網が回るようになっているが、町内放送でも火災場所を知ることができ、駆け付けるようになっている。秋には、夜間想定火災訓練を行う予定になっていた。	今後、地域の消防団の方にも事業所に来ていただき、事業所を見てもらったり、知ってもらえるようになっていた。さらに、地震時等、いろいろな場面を想定して訓練を重ねられたり、又、地域の方も一緒に避難訓練を行う等、利用者、職員の安全と安心に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であることを十分理解し、対応は失礼のないように全スタッフに徹底している。気が付いた時には職員間で注視し合うようにしている。 (外部評価) 事業所全体で「職員の利用者への言葉かけについて」や「利用者のできることを見極めた対応」について話し合っておられる。	職員の利用者へのかかわり方の中には、気になるような場面が見受けられた。又、職員の足音等についても配慮が必要と感じる場面もあった。利用者が「安心して生活できる環境作り」という点から、利用者への職員の対応について点検されたり、職員で話し合う機会とされてはどうだろうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 決定は本人の思いや希望が反映されるよう普段から入居者との信頼関係が築けるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合ではなく、入居者の方々の希望にそって支援できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) それぞれ、希望する場所で散髪が出来るよう、御家族にも協力して頂きながら支援している。起床時や外出の際等、身だしなみやおしゃれが出来るよう、好みの服を一緒に選んだり、鏡の前で整容するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の形態は入居者の嚥下状態に合わせ刻みやトロミ剤を使用している。食事の準備や片付けに関しては、出来る範囲で助けて頂いている。献立には季節の食材を取り入れ、食事を通して四季を感じられるよう配慮している。 (外部評価) 献立は、法人内6か所のグループホームで2カ月分ずつ手分けして、1年間の献立が作成されており、活用しながら食事作りをされている。事業所の畑で育てた野菜を利用者と収穫して調理されたり、季節のものを採り入れて食事を楽しまれていたり、調査訪問時は、竹を使って、事業所内でそうめん流しを楽しんでいた。今年初めて育てたスイカが実り、男性利用者と職員が協力し合って切り分けている様子が見えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 三度の食事の際には必ず汁物を付けるようにし、その他には10時・15時・19時と水分補給の時間をとっている。状態に合わせ、チェック表を使用し、一日の摂取量を確保出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施している。まずは、ご本人の力で磨いてもらい、必要な方には洗い直しをするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中・夜間共におむつの使用は必要最小限にし、可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。排尿チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態の観察を行っている。	
			(外部評価) トイレ誘導することによってトイレで排泄するリズムが作られ、現在は、紙パンツから布パンツを使用するまでに改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 薬に頼らなくても自然な排便が出来るよう、日頃より水分補給や、適度な運動を心がけている。献立を立てる際にも乳製品や食物繊維が摂れるよう工夫している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴が好きな方、拒否がある方とさまざまですが、最低でも週に2回～3回は入浴が出来るように支援している。拒否が強い場合には時間を置き、対応する職員を変えながら臨機応変に対応している。また、皮膚の状態や体調に合わせ、適宜入浴の回数は変更している。保湿の為に入浴剤も使用している。	
			(外部評価) 浴室の床にはスベリ止めマットを敷いておられたり、お一人で入る方も安全に入浴できるよう職員がそっと見守っておられる。外で作業した後にシャワーを浴びる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各自で適度に休息をとっておられる。入眠時間は個々に合わせ、室温にも配慮し、快適に過ごせるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関する情報はお薬情報で確認をしている。薬の変更があった場合には、日誌等で申し送り、その後の状態について観察するようにしている。誤薬防止の為、名前と日付の確認を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日生活していただく中で一人ひとりが出来る事、得意な事をしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月担当者を中心にレクの計画をしており気候の良い時期には遠出し外食したり手作りの弁当を持参している。ホーム内でもいも炊きや素麺流し等季節折々の行事を計画している。また、その他にも個別に行きたい場所へ外出出来るよう支援している。 (外部評価) 職員は、食材の買い出しに利用者で行かれたり、時には、化粧品やおやつ、衣類等の買い物に行くこともある。職員は、畑の水やり等の世話や収穫に行く時には、利用者に声かけし、外に出る機会を作れるよう配慮されている。さらに、テレビでお花のきれいな場所が紹介されると、利用者から「行ってみたい」との希望もあり、皆で出かけられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金についてはご本人や御家族の希望にそって対応している。ご自分で管理されている方、ホームでお預かりしている方とさまざまですが、いつでも使用出来るようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合には、御家族や友人へ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、花を飾ったりメダカを育てたりと、自然に入居者が集まるような工夫をしている。室温の調節は適宜行い居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、居間にひまわりの花を利用者が花瓶に生けておられ、壁には、外出時の写真や、持参したお弁当等の写真を貼っておられた。毎朝、玄関の新聞受けに新聞を取りに行かれたり、日めくりをめくるのが日課になっている方もある。テレビの前には、お好きなテレビ番組名とチャンネル番号が示しており、利用者がご自分でチャンネルを合わせて、楽しんでいる。調査訪問時の昼食後、利用者は、ソファで、雑巾を縫っておられたり、新聞を読んだり、テーブルでは職員と話したり、歌を歌ったり、塗り絵をされる等、それぞれに過ごしておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースにはソファがある他、少し離れた位置にも長椅子を設置し、入居者同士で思い思いに過ごせるように工夫している。食卓席も入居者の方に合わせて座席の配置を検討している。屋外には中庭や駐車場にベンチがあり、散歩した際には休憩場所として過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はご本人が過ごしやすいよう、使い慣れた物、好みの物を自由に持ち込めるようになっている。食器や机等、その時の状況に応じて対応している。	
			(外部評価) ご自分の部屋がわかりにくい方には、入口に目印の花を付けたり、利用者の作品を貼っておられる。お部屋で、手紙や日記を書かれる方や、CDで朗読を聞く方もいる。「午前中は休みにしてほしい」と言われ、お部屋で過ごされる方もあるようだ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 状態に合わせ、対応している。説明をする場合には分かりやすい言葉(方言)を使用し、一緒に行ったり見守りをしながら混乱や失敗を防ぎ出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。また、風鈴や鈴を利用し転倒防止に努めている。	